

群馬支部たより

* Vol. 108 令和2年 9月25日発行

JDS 群馬支部ホームページ

<http://jdsgunman.justhpb.jp/>



☆ 発行責任者 日本ダウン症協会 群馬支部支部長

4月に中学校に入学されたお子さんと、子育て教室に通われているお子さんの近況についてお知らせします。



新しい生活 ～ 中学校に入学して ～

コロナ禍による休校の中、娘は小学校を卒業し中学校に入学して特別支援学級に通っています。スタートしたばかりで慣れない中学校生活に加え、分散登校や短縮授業等の変則が重なり、はじめは戸惑っている様子でしたが、担任の先生のサポートもあり、毎日登校し夏休みを迎えることができました。

休校が長かったせいか、『お勉強は嫌いだけど、頑張る！』が口癖になっていますが、授業には積極的に参加し、発言や質問もしているようです。『歯・口の健康啓発図画・ポスターコンクール』では、ポスター特別支援の部において、3等を受賞することもできました。日々楽しいこと大変なこと、何だかんだと口にしている娘ですが、中学校生活を楽しんでいきます。
(中高部の母)



『子育て教室』 7月のテーマ ～ ふだんと違う生活から学んだこと ～

次男は生後4か月から群馬支部の子育て教室に通っており、現在は小学3年生で特別支援学校に通っています。今回のコロナ禍による3月からの自粛生活と6月からの学校再開という環境の変化が、生活のしづらさを招くきっかけとなりました。

3か月の自粛生活が終わり登校した初日のことです。学校に迎えに行くと次男が靴を履かせてもらっている様子が見られました。自粛中にサンダルばかり履いていたので運動靴の履き方を忘れたと思いました。幼稚園の頃、夏休み明けジャングルジムに登れなくなったことがあり、子育て教室の相談員から「できていたことができなくなったときには、初めて教えたときと同様に教えるとまたすぐにできるようになる。」というアドバイスを受けたことがありました。そこで今回も靴の履き方を教えました。しかし家では履けるようになったものの学校では先生の補助を待つ様子が見られました。なぜ靴を履くのに時間がかかるのかを知るため、先生に「家でも教えたいので、マジックテープを留めるときに動きが止まるとか、次男がどこを見てしまって意識がそれるのかを、離れて見てもらって様子を知らせて貰えるでしょうか。」とお願いしました。先生からは、かかとを入れるときやマジックテープを留めるときに動きが止まるなどの具体的な返事がありました。そこで意識が途切れることなく靴を履くことができるようになるために、かかとに指を入れながら履くことやマジックテープを引っ張りながら留めることを教え、その後1人で履くことができるようになりました。

今後も先生と話し合い、子どもにとって必要な情報を共有し合いながら、育ちの力にしていきたいと思います。
(小学部の母)



◎ 行事予定 ◆第1回セミナー = テーマ 高等部卒業後の生活について =

日時：10月26日（月）（講師：群馬支部相談員） 参加費 無料 *オンラインで開催

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、一時的に支部たよりをこのような形で配信させていただきます。